

# 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月5日

公表:平成 6年 3月 29日

事業所名 放課後デイときわsun

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動に合わせたスペースを確保しています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		法令遵守の職員配置をしています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○		賃貸施設であり、バリアフリー化の対応予定はありません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		支援終了後に清掃・消毒を行う事で清潔を保っています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日のミーティングにて情報交換・振り返りを行い、業務改善に繋げています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		今回が開所して初めての評価なので、今後公開していきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		今回が開所して初めての評価なので、今後公開していきます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価はおこなっていません。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修、リタリコ研修ナビの活用、外部講師を呼び研修開催をしています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		適切な支援となるように、定期的に支援会議を実施し、計画の作成をしています。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシートをもとに聞き取りをしています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童発達支援ガイドラインに即して個別支援計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員間で支援計画を確認し、利用児童の個別支援を行っています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		それぞれ意見を出し合って立案しています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用児童の特性に応じて工夫しています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		○		現在利用児童が1名の為、集団活動を組み合わせる事が出来ていないが、当法人のこども園と協力しながら検討します。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝、職員間で確認してから支援に当たるようにしています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		支援終了後に振り返りの時間を設ける事が難しい為、翌日の支援開始前に振り返りや情報共有の時間を設けています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			その日の支援を記録し、職員間で情報共有し、改善点を話し合っています。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングや保護者様の意向を配慮し、サービス計画の見直しをしています。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達管理責任者等の精通者が参加しています。		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		今後保護者の同意を得て、関係機関との連携をしていきたいと思います。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/			対象児が在籍していません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/			対象児童が在籍していません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			対象児童が当法人のこども園に通っているため、担任等と支援内容や情報共有と、相互理解を図っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	/	/			対象児童が在籍していません。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			支援準備等で、人員を割く事が難しく積極的な参加が出来ていない。可能な時に参加していきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			現在は、交流の機会を設ける事が出来ない為、今後検討します。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○			支援準備等で、人員を割く事が難しく積極的な参加が出来ていない。可能な時に参加していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳や迎えの際にお子さんの様子を伝えてしています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○			家庭支援が必要なお子さんに対しては、個別に対応していきます。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に丁寧に説明しており、書面でお渡ししています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			定期的にモニタリングを行い、支援内容の説明をし、同意を得ています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			定期的なモニタリングを行い、気になる点の相談に応じています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			利用児童が1月入所だった事もあり、開催できていません。今後の状況により連携の場を設けます。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			相談、意見、苦情等は、その都度適切に対応させていただいています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○			必要に応じて検討していきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○				
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			児童の特性に合わせ、理解できるようにサポートしています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			児童が1月からの利用だったこともあり、行事等の実施は出来ていません。今後、利用児童数の状況により検討いたします。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○				職員間では、会議でマニュアルの確認を行い、様々な想定をした訓練を実施しています。保護者への周知は、契約時に説明しています。

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		定期的に取り組むようにしていきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	/	/		対象児童が在籍していません。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	/	/		対象児童が在籍していません。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	会議等で事例を上げ、定期的に共有や見直しを行っています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		zoom研修等を行い、適切な対応ができるようにしています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			対象の児童が在籍していません。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。